

4 キャベツ16億円産地計画の達成すべき状態及び事業計画

1) 達成に向けた全体の考え方

「キャベツ16億円産地」を実現するため、販売先の主要ターゲットをカット業者や量販店等とし、契約取引を中心に販売先を確保するとともに、それに応じた生産体制を構築するための具体的な取組を実施します。

2) 達成すべき状態と目標数値

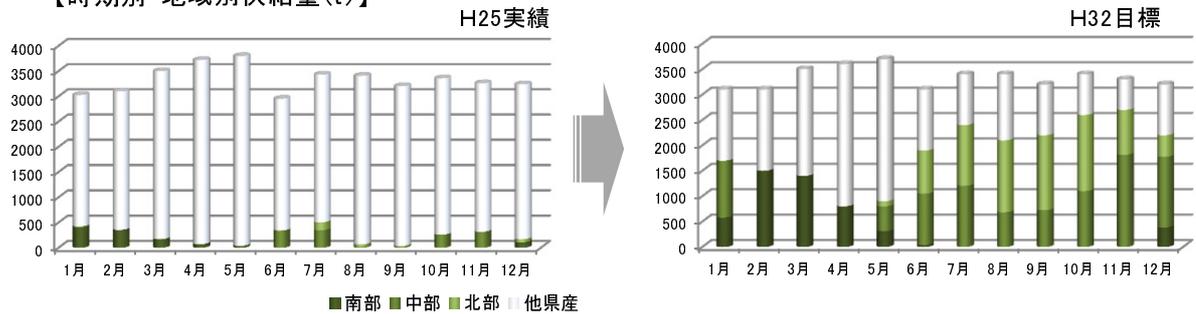
		めざす状態	H27	H28	H29
達成すべき状態	販売	<ul style="list-style-type: none"> ・カット業者、飲食業者、量販店との契約取引を中心に販売が行われ、県産供給率が7%から34%に伸びている 量販店 H25: 247t⇒H29: 3,000t 飲食業者 H25: 42t⇒H29: 3,000t カット業者 H25: 234t⇒H29: 5,000t 	<ul style="list-style-type: none"> ・量販店 247t → 1,000t ・飲食業者 42t → 1,000t ・カット業者 234t → 3,000t 	<ul style="list-style-type: none"> ・量販店 2,000t ・飲食業者 2,000t ・カット業者 4,000t 	<ul style="list-style-type: none"> ・量販店 3,000t ・飲食業者 3,000t ・カット業者 5,000t
	流通	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンボール中心の出荷形態から鉄コンテナや通いコンテナでの出荷による収穫の省力化と販売経費が削減されている ・産地直送の流通体系による輸送の効率化と低コスト化が進んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・大型カット業者への物流に鉄コンテナ収穫とセットで産地直送が導入されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・大型量販店への物流に、鉄コンテナ収穫とセットで産地直送が導入されている 	<p>拡大</p> 
	生産	<ul style="list-style-type: none"> ・ロット確保のための大規模農業団地を5か所、50ha整備し、生産量が2,600t増加している ・その他の地域についても80ha拡大し、平均単収が2.1t/10aと低迷している現状から目標収量に近いレベルの5.2t/10aに向上することで生産量が8,163t増加し、県全体で合計13,540tとなっている ・南部地域から北部地域にわたる県内全域において産地が形成され、それらが連携して地域間調整を行い、周年で安定供給できている 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1号大規模農業団地での本格栽培を開始し、10haとなっている ・その他の地域で60ha拡大している ・周年出荷できる生産が試行されている ⇒4～5月出荷の実験 ・栽培基本技術の向上により、収量が向上している(4.7t/10a) ⇒10a当たり販売額 17万円→35万円 ・生産者連携による安定供給に向けた作業受託を開始している 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2号、第3号大規模農業団地での本格栽培を開始し、30haとなっている ・その他の地域で70ha拡大している ・周年供給できる生産が開始されている ⇒12か月出荷 ・基本栽培技術の浸透により、収量が安定している(4.7t/10a) ⇒10a当たり販売額 35万円 ・生産者連携による安定供給に向けた作業受託が拡大している 	<ul style="list-style-type: none"> ・第4号、第5号大規模農業団地での本格栽培を開始し、50haとなっている ・その他の地域で80ha拡大している ・完全な周年出荷が実現している ⇒12か月×500t出荷 ・応用栽培技術の導入により、収量が向上している(5.2t/10a) ⇒10a当たり販売額 38万円 ・生産者連携による安定供給に向けた県域生産者団体の検討が開始されている
目標数値	目標項目	現状(H25)	H27	H28	H29
	栽培面積(ha)	130	200	230	260
	販売量(t)	2,777	9,410	10,750	13,540
	販売額(億円)	2.2	7.0	8.0	10.0
	単位面積当たり販売額(万円/10a)	17	35	35	38

3) キャベツ16億円産地計画

(1) 販売戦略

- キャベツはお好み焼きやサラダなど幅広い用途で使われる野菜で、年間を通じて需要が安定していることから、機械化体系による大規模栽培を推進することで実需者ニーズに応えます。
- 県内需要量に対する県産供給率が7%と低く、加工業務用を中心に周年供給のニーズが高いことから、県内各地域のリレー出荷により安定的に実需者に供給できる産地をめざします。
- 販売先の主要ターゲットをカット業者、飲食業者、量販店とし、契約取引を中心に販売先を確保します。

【時期別・地域別供給量(t)】



【主要な供給先】

	H25	H29	H32
量販店(ナショナルチェーン※1、リージョナルチェーン※2等)	247t	→ 3,000t	→ 8,000t
飲食業者(ファミリーレストラン、お好み焼き店等)	42t	→ 3,000t	→ 5,000t
カット業者(サラダクラブ等の大型業者)	234t	→ 5,000t	→ 6,500t
その他	2,254t	→ 2,540t	→ 2,900t

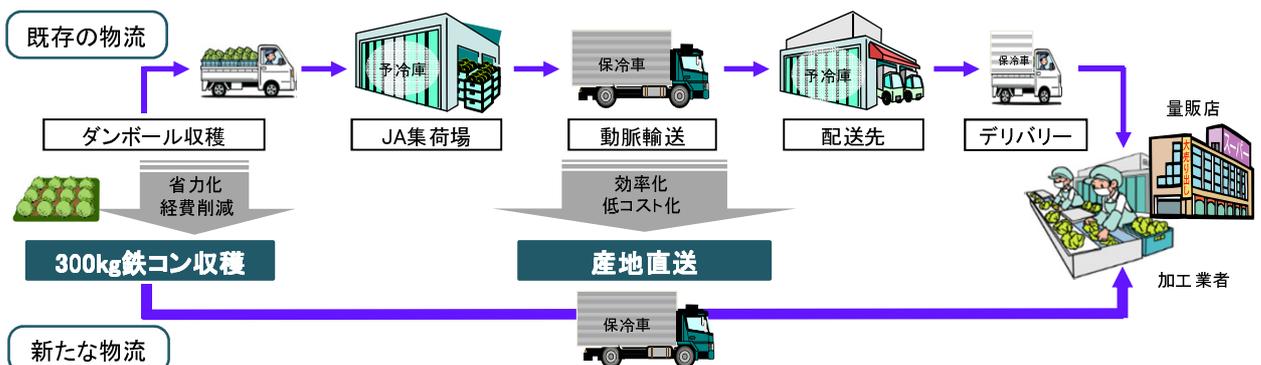
合計 2,777t → 13,540t → 22,400t
 (県内供給率 7% → 34% → 56%)

※1 ナショナルチェーン: 主に全国展開している量販店
 ※2 リージョナルチェーン: 主に地域展開している量販店

(2) 流通体制

- 現在のダンボール中心の出荷形態から、販売先や用途に応じて鉄コンテナや通いコンテナでの出荷を拡大することにより、収穫の省力化と販売経費の削減を図ります。
- 生産者から実需者までのコールドチェーンによる鮮度保持に加え、産地直送の流通体系にシフトすることにより、輸送の効率化と低コスト化を追求します。

【生産者から実需者までの効率的な物流】



(3) 生産体制

- 大型の実需者に周年安定供給できる生産体制を確立するため、遊休農地等を活用した大規模団地を整備するとともに、核となる法人経営体を中心に収量向上を図り、生産者が連携して計画生産・計画出荷できる産地を育成します。
- 温暖な南部地域から冷涼な北部地域にわたる県内全域に産地を形成し、県域生産者団体が周年安定供給の地域間調整を行うことにより、実需者から信頼される広島キャベツ産地を構築します。

【大型カット業者への周年安定供給計画】

H26年のA社への供給実績(見込み)

単位:t

地域	面積	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
北部	2ha										12	15	
中部	6ha						12	48				24	12
南部													
合計	8ha						12	48			12	39	12



H29年のA社への供給計画

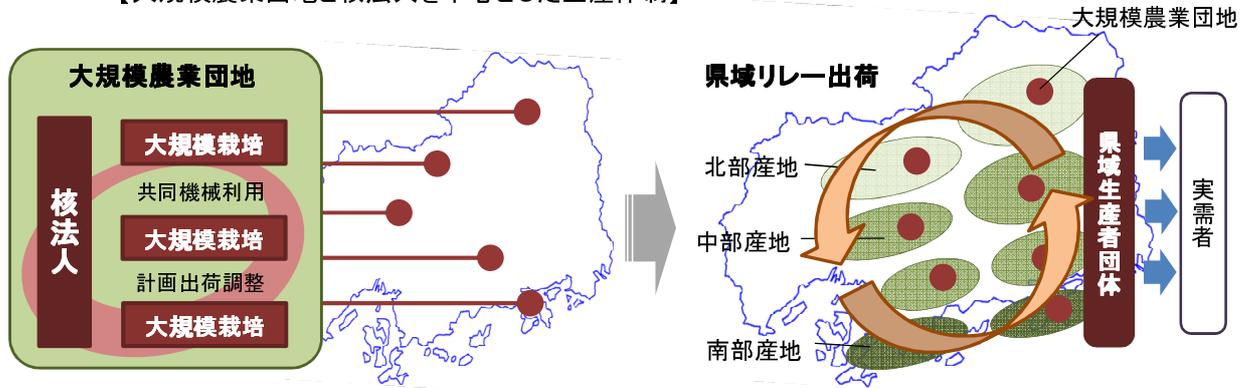
単位:t

地域	面積	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
北部	21ha							60	155	125	80		
中部	32ha					15	150	95		25	75	150	135
南部	37ha	155	140	155	150	140							20
合計	90ha	155	140	155	150	155	150	155	155	150	155	150	155

既存産地の拡大に加え、新たな生産団地の整備により、日量5tの需要に対応



【大規模農業団地と核法人を中心とした生産体制】



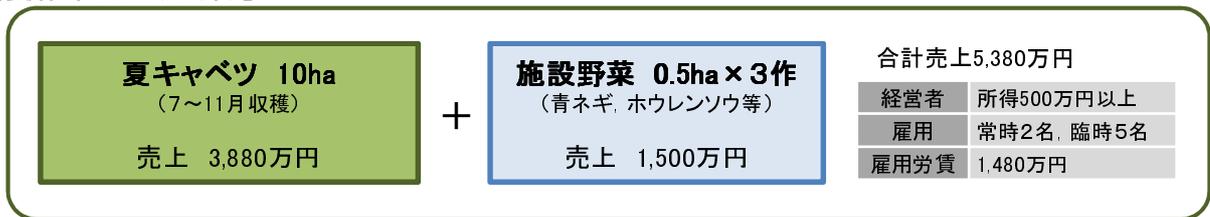
第Ⅰ期(H27~H29): 県内5か所に団地を育成

第Ⅱ期(H30~H32): 県内全域に産地を拡大

(4) 事業モデル(例)

- 第1段階として、キャベツ10ha規模の生産を柱に、南部から北部の気象条件に適した栽培時期及び組合せ品目を地域ごとに提示し、若者の常時雇用を創出しつつ、500万円以上の所得を経営者が確保できる法人経営体を育成します。
- 第2段階では、更に大規模栽培をめざすことにより、ビジネス拡大型の法人経営体を育成し、雇用の増大につなげます。

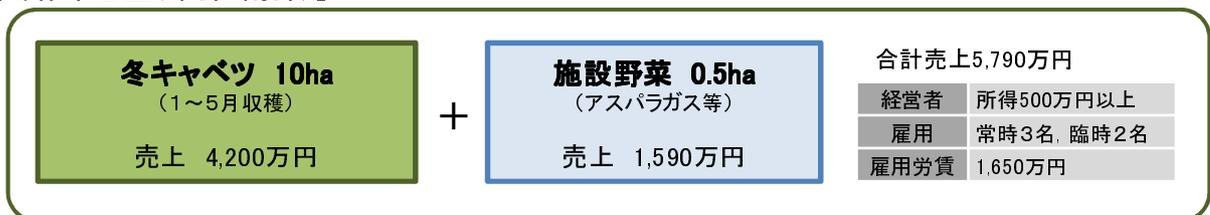
【夏作中心型(北部)】



【春・秋作中心型(中部)】



【冬作中心型(中部・南部)】



【全作対応型(北部・中部) (南部・中部)】



(5) 目標数値(現状(H25)→H29(目標)→H32(目標))

項目		H25	H29	H32
栽培面積	(ha)	130	260	405
うち法人等栽培面積	(ha)	85	220	375
うち大規模農業団地栽培面積	(ha)	0	50	110
販売量	(t)	2,777	13,540	22,400
うち県域キャベツ販売量	(t)	873	10,000	17,500
販売額	(億円)	2.2	10.0	16.0
単位面積当たり販売額	(万円/10a)	17	38	40